

High School Human Rights 40

(高校人権教育通信 第40号)

令和5年(2023年)9月6日

発行 長野県教育委員会事務局 心の支援課

発行人 沼田 誠(心の支援課長)

MAIL kokoro@pref.nagano.lg.jp

「デジタル社会」に暮らす「ひとり」として

「デジタルの世界」は「現実の世界(フィジカルの世界)」の一部であり、「公共の場」であるという考え方が定着しつつあります。そして、デジタルの世界をより良くするためにデジタル技術を使っていくことが、その一員である私たちには求められています。

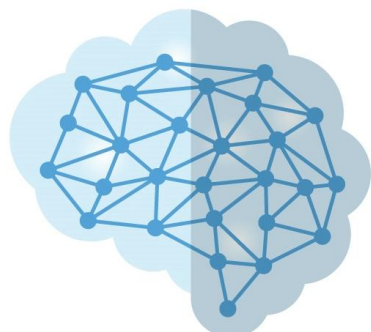
技術に善悪はありません。だからこそ、技術を使う私たちがその特徴を理解し、誰かを傷つけてしまうことのないように細心の注意を払う必要があります。

今回は、デジタル技術の特徴についてお伝えします。どうすれば誰かを傷つけることなくICT機器を使うことができるかを考えてみましょう。



フィルターバブルとエコーチェンバー(視野が狭くなる原因)

【フィルターバブル】



検索ワード等をAIが分析

好きそうな情報だけを表示

好きなものに囲まれ、嫌いなものを目にすることがない幸福な状態

ニュースサイト、SNS、ショッピングサイトも同様の仕組みを採用

「情報の『泡』に包まれたような状態」のことを「フィルターバブル」と呼びます

好みの情報にアクセスしやすいという利点がある一方、他の意見、違う価値観、別の立場があることに気づきにくい状態でもあります。

【エコーチェンバー】

フィルターバブルの中では、自分と同じような意見や価値観を持った人と交流する相手が多くなる ⇒ 否定されることが少ない

自分と似た意見、感想が返ってくる

自分の意見は正しいという思い込みが強くなる

「チェンバー」は小部屋という意味です。狭い空間の中で反響(エコー)して増幅されていくことを「エコーチェンバー現象」と呼びます。ネット利用者が、急激に強い思い込みを持ってしまう原因の一つだと言われています。

こんな勘違い、していませんか？（ネットの匿名性について）

SNSに友だちとふざけて撮った動画を上げたけど、自分の個人情報は書いてないから大丈夫だよね？

一つ一つの投稿には個人を特定できるような情報は無かったとしても、どんなに注意しても小さな個人情報が紛れ込みます。それらを総合すれば、個人を特定できてしまうことがあります。迷惑動画が炎上して、投稿者の個人情報がオープンにされた例が過去にはたくさんあります。

また、悪質な中傷については、裁判所から運営会社に対して、書き込んだ人の個人情報を開示する命令が出されることがあります。

ネットに匿名性はありません



この投稿、鍵アカだから、知らない人には見られないので安心！

鍵アカウントや限定公開等で、投稿を見られる人を制限することはできます。ですが、スクリーンショットを撮ることによって画像の複製をすることができます。それが個人の端末に保存された場合、削除することはほぼ不可能です。その画像がネットに上げられたら、世界中の誰でも、どこからでも閲覧することが可能です。

ネットにあげた情報は秘密にすることはできません
ネットにあげた情報は完全に消すことはできません

ネットの匿名性の高さが、誰かを傷つける言動の生まれやすい原因の一つと言われています。ですが、匿名性は「高い」だけであり、完全な匿名ではありません。そもそも、匿名であっても、他人の人権を損なう行為は許されないことです。

デジタルタトゥー



発信された情報は、ネット上のあらゆる場所に広がり記録されます。書き込みを削除しても、誰かの端末にコピーされ保存されたデータは消えません。いつまでも消えずに残り続けることから「タトゥー」＝「入れ墨」にたとえられます。永遠に残り続け、みんなに見られ続けても大丈夫な情報どうか、送信ボタンを押す前にもう一度見直しを行いましょう。

ICT機器を活用することで、自分も含めて多くの人が幸せになるように

デジタル技術は利便性を追求しながら進歩していきます。デジタル社会の一員である皆さんは、進歩し続けるデジタル技術の特徴を学びつづけ、自分も含めて多くの人が幸せになるようにICT機器を活用してください。

もっと詳しく知るために

【デジタルやネットで自律的に問題解決、「デジタルシティズンシップ」のスキルとは】
（「日経クロステック」 <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/keyword/18/00002/100400208/>）

